



【法律相談編】

■ 良い対応

体調不良で前の職場を退職した高野さん。新たな仕事についてもの、給料が下がり住宅ローンの返済が不可能に。家計は厳しく、多重債務を抱えてしまいました。

法律相談の予約を入れ、この日、最初の相談日を迎えました。

男 性：（ドアをノックをする）コンコン（ノックの音）

弁護士：どうぞ。

男 性：（ドアを元気に開け、入室する。明らかに元気がない）
こんにちは。電話した高野です。

弁護士：こちらにおかけください。

男 性：はい

弁護士：弁護士の武田と申します。

男 性：よろしくお願いします。

弁護士：お電話で、多重債務の整理ということで相談されたいということでしたが、そのような相談でよろしいですか。



男 性：はい。申し訳ありません（自分を責めている）

弁護士：だいぶ生活は苦しいですか。

男 性：ええ、もう切羽詰って…、お金がなくて、取り立ての催促があれやこれやとくるので、家族にも心配かけて…。

弁護士：そうでしたか、お辛いですね。



お話を下さってありがとうございます。
私は、高野さんのお役に立ちたいと思います。
実際にどのくらい借金を抱えているのか教えてください

男 性：はい。もともと住宅ローンが1200万円ほどあったんです。
元いた職場を体調不良で辞めて転職したんですが、月給も下がって、ローンの返済が厳しくなっちゃったんです。



弁護士：それは随分、ご苦労されましたね。

男 性：最初は何とか、貯金などを切り崩してやっていたんですが、子供も大学に進学していて、学費とかもあって、何とかアルバイトしてもらったりして、少しでも負担を下げてくれるように、ってしてくれていて…（少しずつ涙ぐむ）
妻もそれまで主婦だったんですが、慣れないパートに出るようになって、本当に皆に迷惑をかけてしまっ…（頭を抱えてしまう）



弁護士：そうでしたか。

男 性：それなのに、ローンの返済も厳しい月があって、何とかならないか、って言われて、それで家族にも内緒で借金して、それがだんだんかさんでしまっ…、もうどうしようもなくなってしまっ…、それで、多重債務の整理では、自己破産とかの方法があるということを知って、で、そういうことになれば先生に相談すればいいのかなあと思って…、それで相談に来たんです。

弁護士：そうだったんですね。

男 性：でも、もうどうしようもなく、やっぱり自己破産してもどうしても、家族に迷惑をかけますよね。

最近、取り立ての催促が頻繁に来るようになって…。
結局、どうやっても家族に心配かけることになるし、相談に行っても、やっぱり解決できないんじゃないかと思っ…、周りに迷惑かけないためには、もう死ぬしかないんです。（暗い表情）



弁護士：死を考えたしまうほど追いつめられているんですね。辛かったですでしょう。

男 性：（泣く）

弁護士：具体的に死ぬことを考えたりはしますか？

男 性：ええ、もういつ死のうかと考えたり…。

弁護士：自殺の手段を考えたりすることはありますか。



男 性：そこまでは。

弁護士：そうですか。でも辛
かったですね。

高野さん、今、お困り
のことを、どうしてい
けばよいか一緒に考
えていきませんか？

私はとても高野さんを心配しています。一緒に解決していきましょう。



男 性：なにか、いい方法があるんですか？

弁護士：高野さんのように借金を抱え込み、借金の返済のためにま
た借金をするという、いわゆる多重債務となっている方
は決して少なくありません。

取立て等を苦に、転職、離婚、別居、自殺、犯罪までに
追い込まれることもあります。

そういう場合には、私たちは高野さんと協力して、業者
からの督促をやめさせたり、借入れ先、借金の額、収入
などの情報にもとづいて解決策を検討し、もし返済が可
能なら返済計画を作成して、借入れ先と交渉することも
できます。

一緒に解決していきましょう。私も力になりますよ。



男 性：本当ですか。

男 性：もちろんです。そう
することで、たと
えば、高野さんの生活
をおびやかさない方法
での借金の返済が可能
となったり、万が一返済
不可能なら、先ほど
おっしゃったように、
裁判所に破産を申し立
てるという最終手段も
ありますが、



いろいろ相談にのらせていただき、できることから考えていきたいと思っています。

男 性：本当に頼りにしていいんですか。

弁護士：いいですよ。相談しながら進めていきませんか。

男 性：ありがとうございます。どこにも相談するところがなかったの。

弁護士：高野さんはずっとこれまで、悩みを抱えてこられて、本当につらかったですね。



男性：はい。

弁護士：私がお見受けするところ、だいぶ調子を崩されているように思いますが、体調はどうか。

男性：最近、悩みを考えると眠れなくなって、お酒をのんで寝ようと思っても寝付けず、夜に目が覚めるとあとはずっと起きているんです。

弁護士：そうでしたか。



男性：それと食欲がなくなって、疲れやすいんです。

弁護士：(うなづいて聴いている)

男性：そうすると、朝から仕事に行くのも辛くなって

弁護士：だいぶストレスになっていたようですね。気持ちのほうはいかがですか。

男性：正直、しんどいんです。やる気もでなくて

弁護士：それでは気持ちが憂鬱になるのでは？

男性：ええ、

弁護士：ご自身を責めていらっしゃるんですね。



男性：責めているんでなくて、本当のことなんです。私が悪いんですから…

弁護士：債務だけではなくて、体調やこころの健康も心配です。食欲がなかったり、眠れない、気持ちが辛くて、やる気が出ない、というようなことが続いているようですし、死ぬほどまで追いつめられていますよね。これだけのことがあったら、無理もないことです。

男 性：ええ

弁護士：高野さんの今の状態は、うつなどのようにこころの調子を崩している可能性があります。



男 性：うつですか。

弁護士：ええ。専門のお医者さんに相談してみてもいいんじゃないでしょうか。相談してみませんか？

男 性：専門の先生ですか。

弁護士：ええ、そうです。専門の先生なら健康面の相談にのってくれますと思います。

そして、たとえば、仕事のストレスについても話してみてもどうですか？
どのように健康面を立て直していくか、仕事をどうしていけばよいか一緒に考えてくれると思います。

私も協力していきます。



男 性：そうですか。では、お願いできますか？

弁護士：もちろんです。職場では健康について相談できる保健師や産業医がいらっしゃいますか。

男 性：いいえ、小さい会社なので、そういう人はいないと思います。

弁護士：それではどこに行ったらよいかなど相談にのってもらえるように、お住まいの地域の保健師さんに連絡をとってみましょうか。

同意していただければ、私のほうからも高野さんの事情を説明しておきますね。

男 性：ありがとうございます。



(保健師へ電話)

弁護士：いつもお世話になっております。弁護士の武田ですが、相談をお願いしたい方のお電話させていただきました。

今日、相談にいらした方で、少しづつが疑われる状態で、かなり追いつめられて切迫している状態なので、相談にのっていただけないかなと思ひまして。



保健師：そうですか。どんな具合ですか。

弁護士：多重債務で相談に来られたんですが、借金もあるようで、気分が落ち込み、やる気が出ない、眠れない、食欲がないという感じでとても追いつめられていて、自殺を考えている状態です。

保健師：そうですか。ずいぶん辛いようですね。

弁護士：はい。債務の方はこちらで相談にのらせていただきます。専門の医療機関にかかったほうがよいように思いますので、こちらに来ていただいて、ご本人の相談にのっていただき、受診に結びつけていただけないかと思ひまして。

保健師：もちろん、こちらは大丈夫ですよ。相談にのらせていただいて、必要があれば、病院にも一緒に行こうかと思ひます。

弁護士：はい。それではよろしくお願ひします。

弁護士：高野さん、保健師さんが病院にも一緒に行ってくれるそうです。

男 性：ありがとうございました。

弁護士：こちらでもしっかりと債務整理の相談にのらせていただきますね。



男 性：ありがとうございます。最初はもう死ぬしかないと考えていましたが、少し気持ちが楽になりました。

弁護士：そうですか。本当にお辛いと思ひますので、無理せず、体調も見ながら一緒に考えていきましょう。



男 性：よろしくお願ひします。

